

# きょう世界アルツハイマーデー

## 啓発活動やライトアップ

9月21日は認知症への理解を広げる「世界アルツハイマーデー」。国内では「忘れても一人ひとりが主人公」を今年の標語に掲げ、公益社団法人「認知症の人と家族の会」

は認知症になっても安心して暮らせる社会を目指し、全国181カ所の街頭でチラシ配布などの啓発活動を行う。同日夜には、全国44カ所の観光名所などを認知症支援の

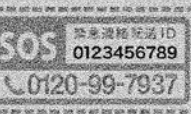
テーマ色であるオレンジ色にライトアップ。関西では、太陽の塔(大阪府吹田市)や京都タワー(京都市)、姫路城(兵庫県姫路市)、彦根城(滋賀県彦根市)などで実施する。

また、認知症保険などを手がける損害保険大手「SOM POホールディングス」は、同日午後(京セラドーム大阪で行われるプロ野球オリックス・ブルーロックス戦で、来場者にオレンジ色の旗を配って一斉に振ってもらい、球場をオレンジ色に染める。同社は「認知症への理解を深めてもらい、認知症になってもその人らしく生きられる社会にしていきたい」としている。

が積極的に推奨しており、大阪府豊中市や兵庫県芦屋市などは家族の負担軽減に初期登録費用を助成している。昨年4月から助成を始めた豊中市では7月末時点で協力者が8千人を超えており、担当者は「システムを理解して協力してくれる市民を増やしていきたい」と話す。

# 認知症「みまもりあい」

認知症などで行方不明になった家族を早期に見つけるため、スマートフォンを使って近くにいる人たちに捜索を依頼する「みまもりあいアプリ」のダウンロード数が50万件を突破し、協力の輪が全国に広がっている。捜索依頼のためのIDを取得する初期登録費用を助成する自治体も増えつつあり、地域での互助の仕組みとして注目を集めている。



## 地域互助広がる

アプリの発案をこう説明する。利用者はまず、ウェブなどで申し込んでIDを取得

し、自分の携帯電話番号を登録。捜索を依頼する際は、捜したい家族の顔写真や見た目の特徴などを入力

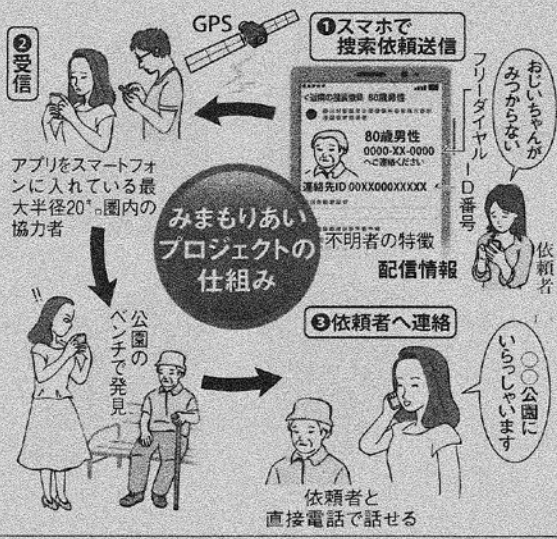
すると、最大半径20キロ圏内にあるアプリをダウンロードした協力者に情報が配信される。不明者を発見した協力者は、捜索依頼画面に記載されたフリーダイヤルに電話してIDを入力すると、依頼者に電話が転送され、居場所を直接伝えることができる。

お互いの携帯電話番号を知らないままフリーダイヤルを通じて話せるため、プライバシーが守られるのが最大の特徴だ。IDの取得には、初期費用2千円(持ち物や衣服に付けられるIDステッカー)写真は見本(48枚付き)と年会費3600円が必要。一方、アプリのダウンロードは無料で、誰でも協力者になれる。

「この国では年間約186億円の現金が拾得物として交番に届けられている。困っている人を助ける互助の精神を生かしたいと考えました」。システムを運営する一般社団法人「セーフティネットリンクージュ」の高原達也代表理事(46)は、

(加納裕子)

## 捜索支援アプリ



みまもりあいプロジェクトの仕組み

自治体も推奨  
平成29年9月に運用をスタートすると、自治体も注目。現在、全国で22自治体

地域での認知症ケアを研究する大阪大学大学院医学系研究科の山川みやえ准教授(老年看護学)は「地域には、認知症だけでなく、さまざまな病気で見守りが必要な人がいる。より多くの人がこのアプリを導入することで、複数の自治体を巻き込んだ広域的な見守りが可能になる」と期待している。

問い合わせは、セーフティネットリンクージュ(011-5722-6865、平日午前9時半~午後4時半)。